

第7回研究会

マラウイ湖と琵琶湖の比較を考える

龍谷大学理工学部・講師/里山学研究センター・研究員
丸山 敦

琵琶湖とマラウイ湖は、ともに世界有数の古代湖であり、非常に多様な水生生物群集に恵まれる点で共通する。2つの湖を互いに比較対象と捉えることは様々な学問分野において非常に面白いが、置かれた条件が大きく異なることには留意すべきであろう。まず、面積で43倍、水深で7倍の違いがある。加えて、温帯に位置する琵琶湖は年1回攪拌湖であり、不完全攪拌湖であるマラウイ湖とは、物理・化学的な特性が大きく異なる。たとえば、後者の深底帯はほぼ無酸素で生物はほぼ生息しない。集水域の農業主産物にも、コメかトウモロコシかという違いがあり、湖への環境負荷も質的に異なる。最も興味深い違いは、環境問題の進行具合であろう。マラウイ湖での大きな問題は、過剰な漁獲圧と周辺の裸地化である。琵琶湖では、裸地化の問題は江戸期などの過去の記録にのみ確認され、富栄養化も一段落し、現在は外来生物の影響や沿岸帯の改変が問題視されることが多い。2つの湖は互いの過去や未来を映しているとも捉えることができ、比較研究をするならばこれらの差異をどう活かすか、議論を重ねるべきであろう。